

大学史ニュース

第23号

2022年7月12日 発行

目 次	
◇日本大学研究室と前田直之助…………… 2	◇終戦直後の卒業生—飯尾庄二郎関係資料の寄贈… 5
◇日本大学歯科医学校関係資料について…………… 3	◇学徒兵の卒業証書…………… 6
◇歯学部の祖・佐藤運雄のアルバム…………… 4	◇創立70周年記念式典開会式辞草稿…………… 7



錦絵に描かれた山田顕義 —永島孟齋画「川尻河戦争の図」—

明治10（1877）年、日本史上最後の内戦である西南戦争が起こり、九州各地で激しい戦闘が繰り広げられました。その当時、司法大輔として日本の近代法整備に取り組んでいた学祖山田顕義は、征討軍司令長官のひとりとして熊本の地へ派遣されます。

政府軍の鎮台が置かれていた熊本城では、2月中旬より薩摩軍との戦闘が続いていました。その薩摩軍の背後を衝くため、山田顕義は別働旅団を率いて3月25日に八代へ上陸、熊本城を目指します。4月8日、顕義の元へ薩摩軍の包囲網を突破した奥保鞆少佐（後に元帥陸軍大将）が到着、熊本城内の切迫した状況を伝えました。これを受けて川尻への一斉進撃が決定し、熊本城救出作戦は最終局面を迎えます。

昨年、当課が入手した永島孟齋画の「川尻河戦争の図」は、4月12日の川尻（現熊本市南区）での戦いの様子を描いた錦絵です。向かって左側、馬上にて指揮を執り奮闘する山田顕義の姿が見て取れます。西南戦争では田原坂の戦いが特に有名ですが、本資料は顕義が活躍した川尻の戦いを描く珍しい作品です。

（図子）

日本大学研究室と前田直之助



前田直之助

令和4年4月、大分県在住の後藤騎一郎氏より、本学で大正期に講師を務めていた前田直之助の写真をご寄贈いただきました。後藤氏は父久馬一氏の遺品の中から写真を発見し、裏書されていた「前田直之助」という情報を手掛かりに、インターネットで国会図書館の蔵書検索をしたところ、前田の著作『民事訴訟法強制執行』を日本大学が発行していることを知り、本学に連絡をいただいたとのことでした。

前田直之助は、明治7（1874）年高知県に生まれ、明治37年に東京帝国大学法科大学を卒業して司法官試補となり、東京地方裁判所に勤務します。その後、東京地方裁判所部長、大審院判事となり、昭和10（1935）年に大審院部長に就任しました。この間、判事検事登用試験委員及び弁護士試験委員を4回務めています。昭和12年3月に司法官としての定年を迎えますが、このとき、前田の退職を惜しみ、全国約1,000名の弁護士より前田の定年延長を懇願する陳述書が大審院長に提出されています（『読売新聞』昭和12年2月9日付）。前田は定年延長することなく退職しましたが、彼の裁判官としての能力と人柄を惜しむ人が多かったことが分かるエピソードです。

東京地方裁判所勤務から始まる前田直之助の司法官としてのキャリアは、そのすべてが東京勤務でした。そのため、東京に所在する中央大学、日本大学、明治大学で講義しています。日本大学では、大正期に専門部法科、政治科、日本大学研究室（通称・山岡研究室）、その後の組織である高等研究科で民事訴訟法を講義していました。日本大学研究室は、判検事登用試験や弁護士試験などの受験生のために大正3（1914）年に開設された研究室で、入室試験に合格すれば学外者も入室できました。この研究室は好評を博し、学外の入室者も増えたため、大正10年には高等研究科を設置し、在学生対象としては特別研究室を開設しました。

次に後藤久馬一氏について紹介します。久馬一氏は明治26（1893）年に生まれ、旧制高校に進学するも実家である廻船問屋の経営が厳しくなったため、東京に転居し苦学して中央大学に学んだといわれています。この頃、久馬一氏は図書館で勉強中に前田直之助と知り合ったそうで、前田との縁が中央大学に学びきっかけとなったのかもしれませんが、中央大学デジタルアーカイブズで検索したところ、久馬一氏は大正4年に中央大学専門部法科に入学し、大正7年に卒業していることが分かりました。当時、中央大学で民事訴訟法を教えていたのが前田直之助でした。

ここまでだと、久馬一氏は本学と何の接点も無いのですが、この話には続きがありました。前田直之助は当時、日本大学研究室で判検事登用試験、弁護士試験受験者のために民事訴訟法を講義していましたが、久馬一氏は中央大学の専門部法科卒業後にこの研究室に入室します。『日本法政新誌』16巻4号（大正8年）によると、論文試験合格者146名に筆記試験を行い、37名が研究室に入室したとあり、その中に後藤久馬一氏の名前がありました。この同年度に久馬一氏は判検事登用試験に見事合格していますが、その記事は中央大学、日本大学の機関誌に掲載されています。

つまり、後藤久馬一氏は、中央大学、日本大学で前田直之助の薫陶を受けており、日本大学の正科を卒業しては



後藤久馬一氏
（後藤騎一郎氏提供）

いないものの、付置機関である日本大学研究室で勉学に励み、判検事登用試験と弁護士試験に合格したという経歴でした。後藤家宅にかつてあったという久馬一氏の数通の卒業証書の中には、日本大学研究室の修了証書も含まれていたと考えられます。

このように、当時の日本大学研究室は学外者も多かったのですが、その動向についてはよくわかっていませんでした。今回の資料寄贈を受けて後藤久馬一氏の経歴を調べたことにより、日本大学研究室に在籍していた学外生の動向の一端が明らかとなりました。資料をご寄贈いただいた後藤騎一郎氏にあらためて御礼申し上げます。

さらに付記したいのは、今回の件を調べるにあたって、中央大学デジタルアーカイブや国会図書館デジタルコレクションなど、本学以外の情報はほぼインターネットから入手することができました。寄贈者の後藤騎一郎氏も国会図書館デジタルコレクションで前田の著書を見つけて本学にご連絡いただきました。つまり、大学史資料のデジタルデータ公開は、教育・研究に資するというだけでなく、大学史資料の収集活動にもつながるということを再認識いたしました。本学は大学史資料の公開が十分ではありませんので、今後、ホームページを活用したデジタル資料の公開を進めていきたいと思えます。

(松原)

【参考文献】

『大日本法曹大観』（国民社、昭和11年）

『日本法制新誌』第16巻第4号（日本大学内日本法政学会、大正8年4月）

中央大学デジタルアーカイブズ https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/history/history_06/

日本大学歯科医学校関係資料について

令和4年5月、千葉県浦安市の古谷俊爾氏より、日本大学歯科医学校を卒業された父である古谷俊忠氏関係資料の寄贈を受けました。

古谷俊忠氏は、大正2（1913）年生まれで、昭和9（1934）年7月に日本大学歯科医学校を卒業、翌年には歯科医師試験に合格しました。日本大学歯科医学校は夜間の3年制で、卒業後には歯科医師試験の受験資格が与えられました。古谷俊忠氏は、日中戦争に出征し、帰還後は細菌学の研究にも取り組みましたが、従軍中の病が元で昭和18年に病死されました。

今回は、日本大学歯科医学校卒業証書、同校賞状（学術優秀）のほか、歯科医師免許証や神奈川県歯科医師会の弔辞など11点の資料をご寄贈いただきました。資料の寄贈にあたっては、工藤逸郎日本大学名誉教授とご令嬢の桂奈子氏に仲介の労をお取りいただきました。ご寄贈いただきました古谷俊爾様とご尽力いただいた工藤逸郎名誉教授、工藤桂奈子様に記して御礼申し上げます。

(松原)



歯学部の祖・佐藤運雄のアルバム



佐藤運雄（昭和31年9月）

この度、佐藤運雄^{かずお}（明治12年～昭和39年）に関するアルバムを入手しました。佐藤は本学歯学部の前身である東洋歯科医学校の創設者であり、同校が専門学校になったのち本学専門部歯科として合併された際には教授兼科長となって、歯学部の礎を築きました。

佐藤運雄のアルバムには、本学に関する写真や家族との写真、趣味の謡曲を嗜む様子の写真などが収められており、佐藤の様々な側面を伺い知ることができます。また、写真と共に履歴書2点、日本歯科医師会会長就任承諾書、身分証明願が挟み込まれていました。このうち、履歴書に着目してみましょう。

履歴書のうち1点は、英文タイプで作成されたものです。中身は「IN THE EDUCATIONAL FIELD」「IN THE SOCIAL SERVICES」「HONORS, CERTIFICATES, ETC」の三つの事項に分けて佐藤の経歴が記されています。もう1点は、和文で「日本大学歯学部」用箋に手書きで作成されたものです。英文の履歴書とは異なり、教育に関するもの、社会奉仕活動に関するもの、表彰に関するものなど様々なものが年月日順に記されています。2点の履歴書からは、佐藤の経歴を詳細に確認することができます。

どちらの履歴書も昭和33（1958）年6月の名誉会頭就任で終わっていることから、昭和33年前後、『佐藤運雄先生八十賀記念写真帖』の刊行前後に作成されたものと推定されます。なお、この『写真帖』の一部にはアルバムに収められた写真と同じものが使用されていますので、アルバムは『写真帖』作成時に使用されたという「当時の学生が作った「アルバム」（『写真帖』編集後記より）なのかもしれません。

（上野平）



英文履歴書

【参考文献】

- 『佐藤運雄先生八十賀記念写真帖』（昭和33年）
- 白土壽一・栖原六郎『佐藤先生還暦祝賀記念論文集 上巻』（佐藤先生還暦記念論文集編纂部、昭和14年）
- 工藤逸郎『日本大学歯学部創設者佐藤運雄先生の生涯と建学の精神』（日本大学歯学部同窓会、平成17年）



軍事教練（撮影年不明）
前列左から5番目が佐藤運雄



佐藤運雄寿像除幕式（昭和9年）
田島亀彦作。昭和19年に金属供出されたが、戦後再鑄造された。

終戦直後の卒業生—飯尾庄二郎関係資料の寄贈

令和3年12月、東京都在住の星雅俊氏より、叔父・飯尾庄二郎氏の卒業証書を含む資料4点をご寄贈いただきました。

飯尾氏は大正11（1922）年東京市に生まれ、昭和14（1939）年頃に本学第三商業学校へ入学、のち専門部法律科に進学します。しかしながら折しも戦争のただ中、在学中に出征することになります。詳細な軍歴は不明ですが、アルバムに残された写真より、昭和18年頃には中支派遣軍蘇州幹部候補生教育隊に入っていたことが分かります。

飯尾氏は戦地で終戦を迎え、昭和21年に復員します。今回寄贈いただいた卒業証書の日付は昭和20年9月30日と、復員以前の日付であることに着目できます。そしてこの卒業証書には山岡萬之助総長の名前が記されていますが、山岡総長は同年12月を以て退任しているため、山岡総長時代最後の卒業証書とも言えるでしょう。

今回、卒業証書と併せて中学校と高等学校の教諭の仮免許状2点もご寄贈いただきました。

飯尾氏が仮免許状を交付されたのは昭和29（1954）年10月（中学校）と12月（高等学校）。実は同年6月に教育職員免許法の改正が公布されており、これにより戦後の教員不足を補うための臨時措置である仮免許が廃止されることになりました。ただし附則の規定により、施行前（公布から6か月後まで）に仮免許状を授与されている者などは引き続きその職に在ることができました。仮免許交付の資格を有していた飯尾氏は恐らくこの改正のタイミングで仮免許状の発行を申請したと考えられます。なお、甥の星氏によれば、飯尾氏は実際に教員になることはなかったとのこと。

貴重な資料をご寄贈いただいた星雅俊氏に、記して感謝申し上げます。

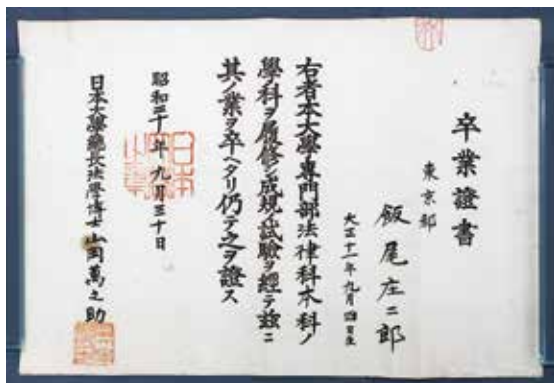
（上野平）



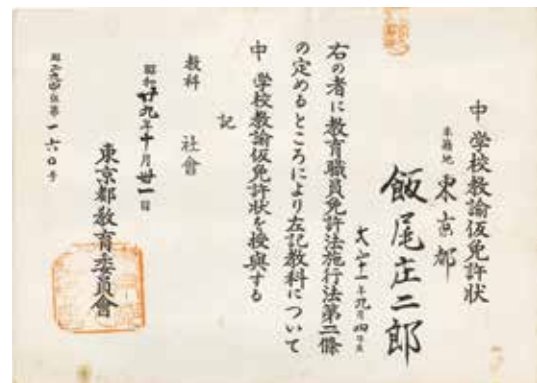
飯尾庄二郎氏



飯尾氏が所属した蘇州幹部候補生教育隊第二中隊（昭和18年6月）。2列目右から6番目が飯尾氏



専門部法律科卒業証書（昭和20年）



中学校教諭仮免許状（昭和29年）

日本大学中学校「創立二十五周年記念絵葉書」



令和3（2021）年6月、文理学部OBの寺島正芳氏から、本学関係の絵はがき6点・卒業写真アルバム2点など42点の資料が寄贈されました。その中の1点日本大学中学校の「創立二十五周年記念絵葉書」を紹介します。

日本大学中学校は、日本大学第一高等学校・中学校の前身の旧制中学校で、大正2（1913）年2月、日本大学高等師範部生の教育実習などを目的として設置さ



「創立二十五周年記念講堂・父兄大会」
絵はがき

れました。当初は、三崎町の大学校舎に同居していましたが、本所区（現墨田区）横網町に新たな校舎を建築して大正13年に移転し、現在まで続

いています。同校の創立25周年は、昭和13（1938）年ですが、前年7月に「日中戦争」が起こった影響で、記念式典は延期となり、2年後の昭和15年に挙行されました。

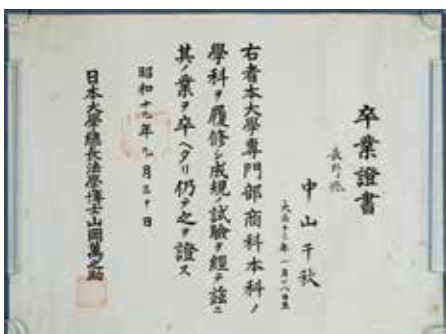


新築落成記念絵葉書

絵はがきは、昭和12年に竣工した「創立二十五周年記念講堂」や「図書室」「衛生室」の写真などが掲載された4枚が封筒に入っています。封筒の図案は、昭和2年に三崎町の新校舎が竣工した際に配られた「新築落成記念絵葉書」と全く同じで、絵はがき図案もほぼ同様です。

（高橋）

学徒兵の卒業証書



昭和19年度専門部商科卒業証書

令和3（2021）年6月、元本学職員の中山聡氏から、本学関係資料7点が寄贈されました。6点は本学出身の父千秋氏に関する資料で、戦時期の写真3点・卒業証書2点（専門部商科及経済学部経済学科）・試験合格票（経済学科昭和21年4月）です。残り1点は、千秋氏が友人から貰った農獣医学部卒業記念のライターです。

千秋氏は、昭和19（1944）年9月に専門部商科を卒業。経済学部経済学科に進学し、



千秋氏出征に際して日章旗に書かれた
寄書き

出征しています。その際の、経済学部長らの寄せ書きの書かれた日章旗は、平成25年に聡氏の母富子氏から当課に寄贈されています。

（高橋）

「日本大学創立六十周年記念祭 芸能祭」パンフレット



1日目プログラムの一部

昭和24（1949）年、日本大学は新制大学として新たにスタートすると同時に、創立60周年を迎えました。10月4日には昭和天皇の行幸を仰ぎ、法文学部大講堂で記念式典が挙行されました。

関連行事は、10月1日～12日にかけて開催され、その一つが5日・6日に神田の共立講堂で開催された芸能祭です。1日目には第1部開演後、^{ふみあき}呉文炳総長に続いて、同年公開の映画「青い山脈」で助



1日目第3部
「冗談音楽」の三木鶏郎グループ

演を務めた、芸術科出身の女優木暮実千代の挨拶がありました。第2部では、水上競技の応援歌「水の覇者日大」が、作曲者の古関裕而自身の指揮で発表されています。

1日目・2日目ともに第1部は「学生演芸の部」で、芸術学部だけではなく、経済学部や歯学部などの学生たちも合唱・演奏・演劇を披露。1日目第3部・2日目第2部では、NHKのラジオ番組「日曜娯楽版」の人気コーナー「冗談音楽」で人気の三木鶏郎グループや、プロの芸術家によるバレエや日本舞踊などの演目が披露されました。両日も悪天候にもかかわらず、満席の盛況ぶりでした。

（高橋）

創立70周年記念式典開会式辞草稿

令和3（2021）年12月、元理工学部准教授の頼住憲一氏から、創立70周年記念式典における古田重二良会頭「開式の辞」の草稿をご寄贈いただきました。この式典は、昭和34（1959）年10月6日に両国の日本大学大講堂で、天皇・皇后両陛下をお迎えして開催されました。

草稿の文章を『日本大学百年史』第3巻506～507頁に掲載された全文と比較したところ、漢字の誤表記以外では

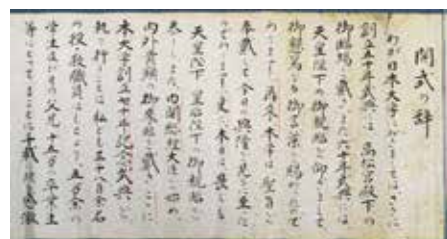
「^は榮えある」が「^は光榮ある」になっている程度の違いで、完成直前の草稿と考えられます。

裏面には「古田重二良」の印が二つ押されています。

頼住氏の夫人早智子氏は、古田重二良の秘書を務めており、本資料は彼女の遺品を整理していた際に見つかったとのこと。また、頼住氏からは、本年3月に古田重二良の肖像写真もご寄贈いただきました。



古田重二良肖像写真



冒頭部分



（高橋） 裏面の「古田重二良」印

日本大学に関する資料が皆さんのそばに眠っていませんか

資料・情報提供のお願い

広報課（大学史編纂）では「日本大学史」に関する資料を広く収集しています。本学の歴史・学生生活・校友の足跡等のようなことでも結構ですので、お気軽にご連絡ください。

日本大学企画広報部広報課（大学史編纂）

E-mail: nuhistory@nihon-u.ac.jp TEL: 03-5275-8444

活動報告

令和4年1月～令和4年6月

（大学史に関する活動）

○展示

12月24日～4月3日
4月4日～6月末日

日本大学が輩出した国会議員（戦前編）（日本学会館2階）
三崎町から江古田へー大正・昭和戦前期の芸術科ー（日本学会館2階）

○調査・研究

1月18日
1月20日
3月10日
6月2日
6月3日

全国大学史資料協議会東日本部会研究会に参加（國學院大學）
全国大学史資料協議会東日本部会幹事会に参加（オンライン）
全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会に参加（帝京大学）
全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・総会に参加（専修大学）
全史料協関東部会総会・記念講演会に参加（オンライン）

○講演

4月28日

スポーツ科学部 大学史講演

○資料整理

日本大学新聞社資料
昭和20～40年代広報課資料
日本大学法学部二部学生会資料

日本大学大学史ニュース

第23号

2022年7月12日 発行

編集・発行 日本大学企画広報部広報課
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24
TEL 03-5275-8444 FAX 03-5275-8094

印刷 フジサービス 株式会社